

2024

3月

～広がれ人権ネットワーク～

三木市人権啓発紙

隣保館だより

テーマ：災害と人権

「隣保館だより」ホームページ（カラー版）  
URL=https://www.city.miki.lg.jp/site/sougourin



1月の能登半島地震発生から2か月が過ぎました。被災地では、避難所生活を余儀なくされている避難者が、いまだに1万人以上もおられます。高齢者や障がいのある人、乳幼児・子ども、短期滞在の外国人や旅行者など、「災害弱者」と言われる人々の人権に配慮した支援が急務です。私たちができることはどんなことでしょうか。

## 三木市から珠洲市へ 被災地支援活動

1月25日～31日、市職員4名が珠洲市で家屋被害認定調査と避難所運営支援活動を行いました。そのうち避難所運営支援活動に従事した2人に聞きました。

商工振興課 田井良和さん

債権管理課 藤枝広起さん

公用車で26日に金沢市に到着し、27日に珠洲市に向かったのですが、ひどい状況でした。主要道路は土砂崩れやひび割れで寸断され、通常2時間で着くところが4時間半もかかって、本部のある珠洲市の健民体育館に着きました。多くの家屋が倒壊していて、津波に襲われた地区では、車が屋根の上にあるのを見ました。



担当した7か所の避難所では、水道が使えないことをはじめ、避難所の要望が届いているのか、津波被害の瓦礫処分の先行きなど、行政や公的機関の情報が圧倒的に不足していると感じました。

短い支援活動でしたが、ある避難所の黒板に書かれた言葉を見たときには、とても嬉しかったです。

支援活動をして強く感じたことは、災害が起きることを前提としてその被害を最小限に抑える「減災」の取組について、日頃から地域で話し合っておくことが大切だということです。



「珠洲のご支援に関わるボランティアの皆様へ感謝します」と書かれた掲示板

2人で避難所を何度も訪問しました。多くの家が倒壊したある地区で、自宅を提供して避難者を受け入れている所があり、地震の大きさに驚きを隠せませんでした。

支援活動は、避難所の代表者、主に区長さんなどから要望を聞き取り、必要な物資を届ける活動です。

要望の中には「下着のサイズの大きいものを」とか「水は2ℓ容器で」「同じ種類の非常食ではなく味の違うものを」などのように個々の要望に応えなければならない物がありました。また、「体温計・血圧計がほしい」といった生命にかかわる物品、「寝ているときに顔が見えないようにパーテーションを」などのように、プライバシーを守るための物品など、人権にかかわる要望もありました。

何度も訪問するうちに顔見知りになり、物資の支援だけでなく人と人の心のつながりも大切だと感じました。最後の訪問の時に「今回で最後です」と言ったら、代表の方に「もう帰るの、寂しいね」と言われ、言葉に詰まりました。やり終えたという気持ちと、心残りを覚えながら、能登の地を後にしました。



令和6年能登半島地震災害義援金を募集しています

令和6年1月9日～4月30日まで

募金箱設置場所：市役所、吉川支所、各市立公民館、三木南交流センター、三木コミュニティスポーツセンター、福井コミュニティセンター、市民活動センター、総合隣保館

# 人権の小窓 (262)

## 歌でつながるやさしさふわり

### ～支援活動で学んだこと～

石田裕之



いしだひろゆき

#### 石田裕之プロフィール

シンガーソングライター。防災士、危機管理士、兵庫県ふれあい活動アドバイザー。

防災音楽ユニット Bloom Works でメジャーデビュー。NPO 法人北神戸田園ボランティアネット、P.U.S バングラデシュの村を良くする会、やっぺす、一般社団法人みずほの家理事

私は中学2年生の時、神戸市内で阪神・淡路大震災を経験しました。幸い大きな被害は受けませんでした。全国から様々なボランティアの方が駆けつけてくださったことが強く印象に残りました。1995年は日本の「ボランティア元年」とも呼ばれています。いつか、神戸を助けてもらったことへの恩返しができるばという思いから、2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地へこれまで100回以上訪問し続けてきました。

初めて被災地を訪れたのは震災から2ヶ月後のこと。被災の爪痕が生々しく、避難所で過酷な生活をされる方もたくさんおられました。ボランティアセンターから割り当てられた作業は瓦礫（もとはは大事なお住まいで、持ち主にとってかけがえのない宝物）の撤去や、泥出しといった復旧のお手伝いでした。

あわせて、作業の合間を縫って避難所で慰問演奏をしませんかと、事前にご提案をいただいていた。そのお話をいただいた時は二つ返事で引き受けたのですが、いざ出発の日が近づいてくるにつれ、次第に不安になりました。

当然ですが、避難所にいらっしゃる方は、家を失くしています。大切な誰かを亡くされたかもしれない。そんな方を相手に歌なんか歌って良いのだろうか。かえって嫌な思いをさせてしまわないだろうか。そんな疑問が湧いてきたのです。そもそもなんと声をかければ良いのか、何から歌えば良いのか、いくら悩んでも見当もつきません。

結局、答えが見つからないまま当日を迎えました。体育館の玄関前に集まってくださった避難者の皆さんを前に、私は正直にそう伝えることにしました。

「今日は神戸から歌を歌わせてもらいに来ました



が、何を歌えばいいか、わかりません。ただ、古今東西のヒット曲が収録されている歌集を持ってきました。今から回しますので、聴きたい歌があればリクエストしていただけますか？そして、よければ前で一緒に歌ってください」

皆さん最初は戸惑われていました。そこへ中学生ぐらいの女の子が出てきてくれました。

「私、福山雅治の『桜坂』がいい」

「ありがとう。よかったら一緒に歌ってくれる？」

「うん、いいよ」

そうしてその子が前で歌ってくれました。すると、周りで聴いていた方から歓声が上がりました。

「〇〇ちゃんがばれー！」

「〇〇ちゃん、歌うまかったよ！」

その女の子をトップに、皆さん次々に前に出て歌っていただきました。私ではなく、地元の一人一人が主役のコンサート。次第に盛り上がっていき、最後に『上を向いて歩こう』を歌った時には、隣の人同士が肩を組んで大合唱になりました。みんなとても良い顔をしておられました。私自身も無心で楽しんでいました。こんなにも音楽をやっている良かったと思えた瞬間はありません。

コンサート終了後握手を求めて大勢の方が集まってくれました。その中の一人の女性の言葉が



忘れられず、今なお同じ地域に足を運び続けるきっかけになりました。それはこんなお言葉でした。

「今日は神戸から来てくれてありがとね。私たちの避難所にも、この2ヶ月の間にいろんな有名人や芸能人、歌手の方が来てくれて、歌ってくれたり励ましてくれたりしたよ。でも、私たちにこんなに歌わせてくれたのはあなたが初めて。この避難所はね、多い時には何百人もひしめき合って生活してるの。自分のスペースなんて畳一畳ほどしかない。プライバシーはダンボールの衝立て一枚しかない。そんな中でじっと生活していると、時には泣きたい時や叫びたい時…笑いたい時や歌いたい時だってあるけれど、周りもみんな辛い人だと思うとそういうことはできずにぐっと我慢してきたんだ。だから今日は大きな声で歌えてちょっと心が軽くなったよ。ありがとね。また来てね」

そう言って、私の手をぎゅっと握ってくださったんです。それを聞いた次の瞬間には、「絶対また来ます」と約束していました。その約束を果たす思いから、それ以来毎月一度のペースで同じ地域に足を運んできました。

私はこの経験から、ある考えが浮かびました。もしあの場で、自分が歌いたい歌、やりたい歌をやっていたら、こんなに喜んでもらえただろうか。皆さんに主役になってもらったからこそ、ここまで喜んでもらったのではないかと。そしてこれは、音楽に限らずボランティア全般に言えるかもしれない。ボランティアは自分のやりたいことをしに行くものではない。ましてや自己実現や自分探しのために行く

ものではない。被災して悲しみに暮れる地元の方々、再び自分の足で立ち上がれるように、今何を必要とされているか、「心のリクエスト」に応えることが、ボランティアに求められるのではないかと考えたのです。

それ以来、どんな活動の時も、まずは地元の方々とのつながりを大切に、皆さんの意向を尊重してお手伝いさせていただくことを心がけてきました。私たち外部のボランティアはいずれ立ち去る存在です。地元の方々が主役であってこそ、私たちが去った後もその地域の復興が続いていくのだと思います。

そうしてお付き合いが深まるにつれ、皆さんの本音をいろいろと聞かせていただくようになりました。震災から一年が経つ頃、ボランティアも報道陣も大幅に減ってしまったのですが、そのことを寂しく思う方がたくさんいらっしゃいました。

「私たちのことを忘れないでほしい。具体的に何がほしいとか何かしてほしいとかじゃないの。離れていても一緒だよと、実感できるつながりがほしい」

と。そして、

「石田君、私たちが元気になれる歌を作って」

と、リクエストを下されたんです。そこで、地元 皆さんからお聞きした一言一言をつないでつないで、歌にしました。『やっぺす♡石巻』という曲です。やっぺすとは東北の方言で「一緒に“やりましょう”」という意味。その言葉通り、レコーディングでは皆さんにも一緒に歌っていただき、ミュージックビデオにも出演していただきました。とても元気の出る作品に仕上がったと思います。YouTubeに公開していますので、ぜひ一度ご覧ください。

東日本大震災以降も、熊本地震や能登半島地震など、様々な地域を訪れています。被災した方々を忘れずに、思いを寄せ続けること。機会を見つけて、その思いを伝えること。それだけでも大きな支援になると思います。

どうか皆さんの優しさを忘れないでいてください。これからもみんなで、ともに「やっぺす!」また三木市の皆さんと歌でつながれる機会があれば幸いです。

# 隣保館カレンダー 3月



日 曜	催し・講座など	日 曜	催し・講座など
1 金	人権相談(緑が丘町公民館) 13:00~16:00	16 土	
2 土	書を楽しむきらきら教室 13:00~15:00	17 日	
3 日		18 月	
4 月		19 火	経営・職業相談 10:00~スマホ入門講座 13:30~
5 火	経営・職業相談 10:00~	20 水	春分の日
6 水		21 木	人権相談(市役所) 13:00~16:00
7 木		22 金	経営・職業相談 10:00~
8 金	経営・職業相談 10:00~	23 土	
9 土		24 日	
10 日		25 月	エアロビクス講座 14:30~15:30
11 月	エアロビクス講座 14:30~15:30	26 火	子ども教室 遠足(舞子方面) 経営・職業相談 10:00~
12 火	隣保館運営委員会 経営・職業相談 10:00~	27 水	
13 水		28 木	手芸サークル 13:30~
14 木	手芸サークル 13:30~ 人権相談(吉川支所) 13:00~16:00	29 金	経営・職業相談 10:00~
15 金		30 土	茶道教室 9:00~

## 2024年フィールドワーク京都を終えて

1月27日(土)、人権推進課・三同教共催のフィールドワークを開催しました。今回は、2022年4月にオープンした宇治市の「ウトロ平和祈念館」と「清水寺周辺の人権史跡」を訪ねました。

最初に訪れたウトロ地区とは、戦前に飛行場建設に携わった在日コリアンの居住地区です。「ウトロ平和祈念館」で、副館長の金秀煥(キムスファン)さんから、ウトロ地区の人々が差別に立ち向かってきた歴史、平和祈念館の設立経緯、祈念館に込められた関係者の思いなどの説明を受けました。



その後、2021年に発生した「ウトロ放火事件」の

### 総合隣保館 使用料改定のお知らせ

令和6年4月1日から貸室の使用料を改定します。新料金は4月1日以降に利用申請された分から適用となります。なお、減免(料金の減額及又は免除)の取扱いに変更はありません。

貸室等名	現行料金 (円/時間)	改定料金 (円/時間)
大会議室兼体育館	400	600
相談室・会議室	200	150
中会議室	200	300
和室	200	200
生活改善室(調理室)	500	600
図書室	150	200
学習室	100	150

生々しい焼け跡の残る地区内を視察しました。

金副館長が、「日本に暮らす全ての人々がつながり、力を合わせることで未来が開ける」と熱く語られたのが印象的でした。「共に生きる」という人権問題の本質的な意味を考えさせられる内容で、参加者にとって有意義な研修になりました。

後半の清水寺周辺での視察では、ガイドボランティアさんから清水坂に暮らした中世の差別された人々の話を聞きました。

清水寺では、寺院設立にゆかりのある平安時代の征夷大將軍、坂上田村麻呂(さかのうえのたむらまろ)と戦ったアイヌの

「北天の雄、阿豆流為・母禮(あてるい・もれ)」の碑の説明などを聞き、新たな知識を得ました。



### 人権啓発紙「隣保館だより」3月号

令和6年3月1日発行(毎月1日発行)

三木市市民生活部 人権推進課編集

〒673-0501 三木市志染町吉田 823

三木市立総合隣保館 TEL 0794-82-8388

FAX 82-8658 E-mail:jinken@city.miki.lg.jp

( 公 印 省 略 )  
三 人 第 1 9 1 号  
令 和 6 年 3 月 1 日

各区長 様

三木市子どもいじめ防止センター  
センター長 平 田 美 香

「子どもいじめ防止センターだより」の回覧について（依頼）

早春の候、貴職にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃は、地域のまちづくり活動の推進について格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、別添のとおり「子どもいじめ防止センターだより 3 2 号」をお届けいたします。

つきましては、子どもや保護者だけではなく、地域の皆様に子どものいじめ防止への理解を深めていただくために、誠に恐縮に存じますが、貴地区での「子どもいじめ防止センターだより」の回覧をお願い申し上げます。

#### 記

- 1 送付物 「子どもいじめ防止センターだより 3 2 号」
- 2 お届けの枚数 各地区の回覧枚数

【担当課】 市民生活部 人権推進課  
子どもいじめ防止センター  
TEL : 8 2 - 8 1 1 0 (三木市立教育センター内)

## 「いじめ見逃しゼロ」をめざそう！

いじめは、いつでも、どこでも、誰にでも起こりうるものです。

文部科学省の「生徒指導上の諸課題に関する調査」(令和4年度)によれば、いじめの認知件数は、全国で681,948件と過去最高になっています。件数が増えていることは必ずしも否定的なことではなく、学校でいじめの見取りがていねいになされていると考えられます。



しかし、いじめの重大事態(※)の件数が923件(前年度より217件増)と過去最高、5年前の2倍近くになっていることは見逃せません。しかも、そのうち約4割が事前にいじめとして認知されていなかったというのです。いかにしていじめをいち早く発見し、深刻な事態に発展させないかが待ったなしの課題となっています。

いじめは放置しておくと、しだいにエスカレートしていきます。初期の段階、つまり行為がまだ軽微で、加害と被害が固定していない状態や、同調する者が少ない段階で認知し、早期に対応することが不可欠です。

よくいじめの始まりのことを「いじめの芽」と表現することがあります。「まだ芽だから…」と単純な人間関係のトラブルとして片づけ、いじめを見落としてしまわないよう注意が必要です。



行為をされた子どもが心や体に苦しみや痛みを感じたら、それはいじめになるのです。過去のいじめ事案を見てみると、ほんの些細なことから予期せぬ方向に推移し、重大



な事態に至っています。「忙しいから…」、「これぐらい…」、「一回きりなので…」などと、いじめを見過ごしたり見誤ったりして、結果としていじめを見逃してはいないでしょうか。まわりの人たちとよく確かめ合ってください。人のかけがえのない命、大切な暮らしや人生がかかっているのです。

※重大事態とは、いじめにより、①生命や心身、財産に重大な被害があると認められる場合、  
②相当の期間欠席(目安は30日)を余儀なくされていると認められる場合です。

# いじめの被害について考える

全国学校図書館協議会の選定図書に選ばれ、多くの人に愛読されている本の中に、『リエゾン－こどものこころ診療所－』という連載コミックがあります。児童精神科を舞台に、病院スタッフや様々な生きづらさを抱えた当事者とその家族の姿を描いた作品で、昨年テレビドラマ化され話題になりました。

その『リエゾン』の第12巻から「起立性調節障害」で苦しむ男子中学生へのいじめを描いたお話を紹介します。起立性調節障害とは、思春期の子どもに起こりやすく、朝起きる時などに、めまいや動悸、立ちくらみ、頭痛などの症状が現れる自律神経の病気です。



「リエゾン－こどものこころの診療所－」12

原作・漫画 ヨンチャン 原作 竹村優作  
発行所 株式会社講談社

朝起きられず定時に登校できないわが子が、その原因を理解してもらえない同級生からいじめを受け苦しんでいます。グループトークから外され、教科書がなくなり、なりすましのメールを送られ、嫌がらせの書き込みをされる…。その事実直面した母親は恐れ悲しみ、学校時代のいじめのつらい記憶がよみがえります。今でも思い出すたびに心臓がギュッと痛くなるのです。

その母親が、「わたしのせいじゃないか」と思い悩み、いじめを止めようと相手の親に対して思い切った行動に出ます。その思いが親子のすれ違いを生み、溝を深めていきます。はたしてその後どんな展開が…親子は理解し合えるのでしょうか。



行為の内容や程度によって異なりますが、いじめを受けると、長年にわたって消えない痛み、「心の傷」として残ることがあります。実際に、いじめがきっかけで不登校となり、大人になって引きこもりになったという人たちもいるのです。

いじめは、被害者ばかりかその家族をも生きにくくするのです。そして苦しみや生きづらさを抱える人を増やしていくのです。

## いじめの解消に必要なことは…

文部科学省は、「いじめが解消している状態」について、単に謝罪をもって安易に解消とすることはできないとし、少なくとも次の2つの要件が満たされる必要があるとしています。



- ① いじめに係る行為が止んでいる状態が相当期間（少なくとも3か月が目安）継続していること
- ② 被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないと認められること

もちろん、いじめ被害の程度等によってはさらに長期の期間を要しますし、苦痛を感じているかどうかは本人だけでなく保護者などからも確認する必要があります。

その上で、被害者に心の傷跡を残さないためにも、学校や保護者など、まわりの大人の対応で十分に配慮したいことがあります。

- ・加害者が、いじめ行為の誤りに気づき、被害者にきちんと“謝罪”できること
- ・いじめが止んだあとも当事者とその集団の見守りや観察を続けること
- ・被害者の気持ちをしっかりと受け止め、安全と安心を確保すること
- ・不安や落ち込み、ストレスなどを和らげるための“心のケア”を続けること
- ・被害者本人が“納得”できるような関わり方や対応を選択すること

絶対に、「どっちもどっち」などとあいまいなとらえ方で被害者にがまんを強いたり、解消を急ぐあまり不用意に仲直りの握手をさせたりしてはいけません。

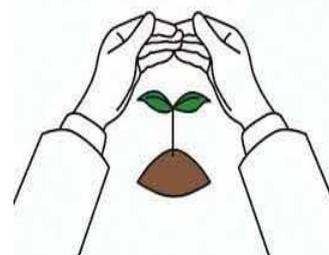
いじめを経験した子どもにとっては、その時にまわりの大人が何をしてくれたかが、人や社会への信頼、さらにはその後の人生において決定的な意味を持つのです。

### ◆小・中学生の皆さんへ

もしもいじめの体験を思い出してしまったりつらいという人や、自分に自信が持てないという人がいたら、ぜひともまわりの大人に伝え相談をしてください。

もしもあなたがいじめを受けたら、今の場所や相手の人からできるかぎり離れてください。そしてがまんせずに誰かに伝え、助けを求めましょう。

もしもあなたがいじめを見たり聞いたりしたら、いじめを受けている子に寄り添い、「一緒に考えよう」、「あなたは悪くないよ」と言ってあげてください。そして自分にできることを探してみましょう。きっと何かあるはずですよ。



# デジタル技術でいじめ発見!!

昨年10月、文部科学省は、全国的に不登校やいじめが深刻な状況にあるとして、「不登校・いじめ緊急対策パッケージ」をとりまとめました。その中で、アプリ等による「心の健康観察」を進めるなどの対策が示されました。

すでに三木市内の中学校には、一人一台タブレット端末を活用し、WEB健康観察アプリ「シャボテンログ」が導入されています。これは子どもたちが毎日こころとからだの状態についてアンケートに答え記録していくことで、「気づき」や「変化」を見えるかたちにしていくWEBシステムです。

生徒の皆さんは、毎朝教室で自分のタブレットから「シャボテンログ」にログインし、「身体の状態」や「心の状態」を入力しています。生徒にとっては自己管理能力を養い、教師にとっては子どもの変化に気づき、悩みを早期に発見し対応することに役立ちます。



さらに、アンケートの回答を通して深刻化しやすいケースを自動で分析することによって、いじめのリスクを把握できる機能もあります。

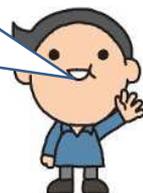
また、「話したいボタン」で自分にとって話しやすい相手を選んでいじめなどの相談をすることもできて、SOSを発信しやすくなっています。



このアプリは、開発会社の谷山大三郎社長が、自身のいじめ被害体験から、「苦しんでいる子どもが頑張らなくてもSOSが伝わり、周囲が気づく環境を作りたい」と願い、開発されたそうです。そして、「手を差し伸べられた経験は、きっと大人になったときに、今度は手を差し伸べる経験にその人が変える」と語られています。

中学生の皆さんには、学校のことや友だちのことなどで困ったときや苦しくなったとき、直接相談しにくい場合には、ぜひこのアプリを活用してほしいと思います。

それでも  
まわりの人に相談  
しにくかったら、  
電話またはメール  
をしてくださいね。



三木市子どもいじめ防止センター

電話

0794-82-8110

相談日 月曜日～金曜日 9:00～17:00

ijime\_boshicenter@city.miki.lg.jp



事 務 連 絡  
令和 6 (2024)年 3 月 1 日

各 区 長 様

三木市人権・同和教育協議会  
会 長 鷺 尾 孝 司

「三同教だより」の回覧について(依頼)

早春の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
日頃は、人権啓発の推進につきまして格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。  
さて、「三同教だより」の全戸回覧について、お忙しいところお手数をおかけしますが、ご協力いただきますようお願いいたします。

記

- 1 送 付 物 三同教だより NO.22
- 2 送付部数 回覧部数分
- 3 連 絡 先 三木市人権・同和教育協議会事務局  
三木市市民生活部人権推進課(総合隣保館内)  
三木市志染町吉田 823  
TEL. 82-8388 (担当：山本・前田)



# 三同教だよ

2024(令和6)年3月

## No.22

三同教は、人権尊重のまちづくりを市民のみなさんと進めています

## 三同教の行事やイベントにご参加ください!

三同教の正式名称は、「三木市人権・同和教育協議会」といいます。学校や地域の団体、企業など、市内の各分野からさまざまな団体が加わり、人権について考え合い、取組を進めている団体です。市民の皆さまが、自分のスタイルに合わせてさまざまな行事やイベントに参加されています。そして、一人一人が主役となり、人権を大切にする三木市のまちづくりのために人権啓発活動を行っています。多くの方の参加をお待ちしております。

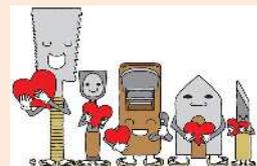
### 人権について理解を深めるための 研究・研修

- 研究大会  
各団体がそれぞれの実践を持ち寄り、互いに話し合い、交流し合って理解を深めています。(2ページで紹介)
- 専門部会  
各部会で、個別の課題を中心に研修を重ね、活動に活かしています。
- フィールドワーク  
現地に出向いて、体験をとおして、人権学習を深めます。

☆さまざまな学習会を行っています。

### 人権環境づくりとしての 啓発活動

- バリアフリー映画会  
(2ページで紹介)
- FMラジオ番組  
(2ページで紹介)
- フォトメッセージ  
テーマに即した写真を募集し、コンテストを行っています。  
心の温まる写真が多く集まります。
- じんけんカレンダー  
フォトメッセージで入賞した作品で心がぽっかぽかになるカレンダーを作ります。



## 三同教の活動

# 4つの柱

### 人権学習をささえる 支援活動

- じんけん学習支援事業  
市民の皆さんの人権学習を応援しています。  
(4ページをご覧ください)
- 研修会の支援  
地域の研修会のアドバイスをしたり、講師や教材の紹介をしたりしています。

### 人権文化をつくるための 組織づくり

- 三同教総会(5月に開催)  
活動や予算など、1年間の方針や取組を決めます。
- ☆総会後に講演会を行い、学習活動を深めています。

## 主な活動の紹介

市民の皆さんのご参加やご協力で、さまざまな行事やイベントを開催することができ、一人一人を大切に  
人権啓発活動を行うことができています。気軽に参加し、人権について考える機会になっています。たくさん  
皆さまのご参加をお待ちしております。

### 研究大会

毎年、11月に  
開催しています。

学校・園・所、  
PTA、企業や地域の団体などの実践報  
告をもとに、それぞれの意見や悩みを出  
し合うことで、学び、情報、発見などが  
得られ、有意義な大会となっています。  
誰でも気軽に参加できます。皆さまの参  
加をお待ちしております。

11月



### バリアフリー映画会

小さな子どもさん  
や障がいのある方な  
ど、誰もが楽しめる  
映画会を開催してい  
ます。

今年度は

ディズニーアニメ

「ミラベルと魔法だらけの家」を  
上映し、就学前の子どもたちをはじめ、  
200名を超える方に楽しんでいただき  
ました。

8月

### FMみつきい

ラジオ番組

「じんけん・こころの小窓」

毎週水曜日 12時30分

土曜日 8時15分 に放送

通年

### 進路保障部会の

#### 自主研修会

進路保障部会では、  
「子どもたちに差別  
を見抜き克服する力  
や自らの進路を切り拓くための意欲を身  
につける」ことを目標に掲げ、年2回、  
自主研修会を行っています。

今年度は、「いじめ・不登校問題」を  
テーマに各学校の課題を持ち寄り、研修  
を行いました。2月の研修会では三木中  
学校の生徒のよりよい進路につなげる実  
践発表をもとにグループで交流を深め、  
有意義な研修会となりました。

年2回



左のコードで、過去の放  
送を聞くことができます。

「じんけん・こころの小窓」のURL

<https://www.sandoukyo.jp/radio/>



ハチドリ

～令和5年度 社会教育部会活動紹介～

# 輝く未来のために

## 私たちは <sup>のこ</sup>何を遺していきますか

私たちは、未来を生きる人々が互いを大切にし、安心して暮らせる社会になることを願っています。そのために、今何を築き、何を遺していけばいいのでしょうか。

人を尊ぶ心、人にやさしい環境、支え合う社会、自由、平等、平和……。その実現には、社会のさまざまなつながりをもった人々の崇高な思いと地道な活動が必須ではないでしょうか。

ささやかですが、今自分たちにできることを精一杯、そのことに取り組まれた社会教育部会の活動の一部を紹介します。

### —吉川町民生・児童委員学習会—

テーマ「性の多様性」

DVD「バースデイ」の視聴をもとに  
アドバイザー 山本和民さん

遺そう!!

違いを認める心

遺そう!!

自他を大切にできる心

### —豊地小 PTA 研修会—

テーマ「車いすバスケットボールについて」

講師 県ユニバーサル推進課  
増田和茂さん  
県国体代表選手  
井上順さん



### —社会教育部会研修会—

=市内中学校生徒会交流会=  
テーマ「自分たちの学校は自分たちでつくる」

講師 NPO 法人カタリバ

遺そう!!

力を合わせ

未来を切り拓く力



### —口吉川地区高齢者人権学習—

テーマ「誰もが幸せを感じるために」  
講師 人権教育啓発専門員

遺そう!!

自分らしく生きる力

### —人権教育指導員研修—

フィールドワーク

- ・姫路市平和資料館
- ・イーグレ姫路



遺そう!!

平和な社会

### —全体活動—

- ・研究大会・総会
- ・フィールドワーク
- 各種研修会等

#### 社会教育部会構成団体一覧

- ・PTA・子ども会育成会・青少年補導委員・老人クラブ・社会福祉協議会・民生・児童委員
- ・社会教育委員・人権擁護委員・部落解放同盟三木市支部連絡協議会・人権教育指導員・賛同団体・個人

## 今年度のフィールドワークは、京都で人権学習を深めました。

月日 1月27日(土)

視察場所 ウトロ平和祈念館(宇治市) & 清水寺周辺(京都市)

今回のメインは、2022年4月にオープンした宇治市のウトロ平和祈念館です。さまざまな困難や差別に、明るく元気に立ち向かってきた在日の人々、そのウトロに寄り添ってきた日本・在日・韓国の市民の歴史が詰まった資料館です。講師の先生の「ウトロの人たちは、人が喜んでくれることが一番うれしい」「人権問題(に取り組むこと)は、みんながハッピーになる(ために取り組む)問題」という言葉に重みを感じ、人の温かみを肌で感じる研修になりました。

清水寺では、ガイドさんの説明により新たな発見もありました。

その場でしか感じるできない有意義な1日を過ごしました。



## 人権学習にご活用ください!

三同教では、皆さんが人権学習を進めるための支援を行っています。

「じんけんサポート事業」や「じんけんスタディ事業」として、各団体が人権の研修会を開催する際に費用の一部補助をしています。

具体的には

**学校の研修会**

**PTAの人権講演会**

**自治会の住民学習会**

などの支援をしています。

☆詳しくは、三同教事務局まで

ホームページも  
チェックしてくださいね。  
三同教だより・FMみっきい  
じんけんサポート事業など

三同教ホームページ

URL <https://www.sandoukyo.jp>

二次元コードは、下で



問い合わせ先：三同教事務局(総合隣保館内)

電話 82-8388 住所 三木市志染町吉田823